令和7年度

市立横手病院 総務課の方針書

組織名	市立横手病院 総務課
所属長名	総務課長　黒澤　雄悦

1. 組織の使命（ありたい姿）

・患者さん中心に、安心・安全な医療の提供につとめます。
・地域の医療・保健に貢献します。
・健全な病院経営につとめます。

2. 組織の抱える課題（現状）

・地域の急性期病院としての診療の質の確保と充実
・今後の病床運用方針の確立
・地域の医療・保健への貢献
・働き方改革と職場環境改善　働きやすい職場づくり・離職者の削減
・健全な病院経営（コスト抑制と生産性の向上）

3. 今年度の『スローガン』

変化に適応し続ける組織、地域から選ばれる病院を目指して

4. 今年度の方針

・経営健全化に向けた取組の推進
・職員の働き方改革と働き易い職場環境づくり
・質の高い医療提供体制の整備と患者サービスの向上

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	経営健全化に向けた取組の推進
	取組内容	・ベンチマークのデータを活用した医薬品、診療材料などの価格交渉の実施 ・業務の効率化を図り、生産性を向上させることによる人件費の抑制 ・『横手市病院事業経営強化プラン』に掲げる経営指標に係る各種数値目標（単年度指標）の達成 ・専門的知識を有する外部アドバイザーを講師を招聘し、経営強化に関する勉強会の開催する
(2)	実現したい成果	職員の働き方改革と働き易い職場環境づくり
	取組内容	・出退勤システムを活用した労務時間分析の実施（時間外削減・年休取得率の向上） ・看護師をはじめとしたスタッフの人手不足の解消を図るため、病院ホームページやリーフレットを活用した職員採用情報の発信を行うとともに、就職相談会や企業ガイダンスでのPR活動や奨学金制度の運用を行う ・「医師の働き方改革」に向け、医師が担っている業務を多職種に移行していくタスクシフト／シェアを推進する ・職員の健康対策支援として、メンタル・ハラスメントに関する研修を実施する
(3)	実現したい成果	質の高い医療提供体制の整備と患者サービスの向上
	取組内容	・初期臨床研修医採用定員4名のフルマッチに向けた広報・PR活動の実施 ・高度医療機器（MRI）の更新、医療機器の早期発注 ・患者向けの院内Wi-Fiサービスの実現

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

・6/29　レジナビフェア2025東京（全国の医学生を対象とした民間主催の医学生向け合同説明会）に秋田県臨床研修協議会（秋田県病院群）として参加
・7/4　初期臨床研修マッチング独自説明会（秋田市）を開催
・5/11、5/23、8/8　県内3看護師養成機関で開催された就職説明会に参加
・6/29　医療技術職の職員採用試験を行い、各職種の募集人数に対する内定者の充足率が100％を達成
・院内ワーキンググループを立ち上げ、病院経営改善に向けた具体的な取組を継続中
・5/30　外部アドバイザーを招聘し、経営・財務マネジメント強化事業（1回目）を開催
・7/28　外部アドバイザーを招聘し、経営・財務マネジメント強化事業（2回目）を開催
・入院患者さん用の院内Wi-Fiサービス運用開始

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

・11/21　令和7年度（第1回）秋田県臨床研修病院合同説明会（秋田大学医学部内）に参加し、当院の初期臨床研修についてPR活動を行う
・2月中旬　令和7年度（第2回）秋田県臨床研修病院合同説明会（秋田大学医学部内）に参加し、当院の初期臨床研修についてPR活動を行う
・11/6、11/14、12/17　中学生向け企業説明会に参加し、横手病院及び勤務する職種についてPR活動を行う
・秋田県人事委員会から勧告内容を市と情報共有し、職員の処遇改善を図る。
・外部アドバイザーを招聘し、経営・財務マネジメント強化事業（3回目、4回目）を開催する。
・高度医療機器（MRI）の更新完了、運用開始（R8.1予定）

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

令和7年度

市立横手病院 医事課の方針書

組織名	市立横手病院 医事課
所属長名	医事課長　大友　真由子

1. 組織の使命（ありたい姿）

・患者さん中心に、安心・安全な医療の提供につとめます。
・地域の医療・保健に貢献します。
・健全な病院経営につとめます。

2. 組織の抱える課題（現状）

・地域の急性期病院としての診療の質の確保と充実
・今後の病床運用方針の確立
・地域の医療・保健への貢献
・健全な病院経営

3. 今年度の『スローガン』

コスト意識を持った経営分析と行動

4. 今年度の方針

・健全な病院経営に向けた病院全体での取り組みの強化　赤字幅の削減
・全職員によるコスト意識を持った行動
・今後の患者動向及び地域医療構想等を踏まえた病床数の適正化
・医療DXによるマイナ保険証の利用促進と電子処方箋導入
・地域の医療機関・介護施設・行政等との連携強化

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	コスト意識を持ち収益改善に向けた経営分析と行動
	取組内容	・コンサルからの経営支援により収入アップ・コスト削減を図るとともに総務省マネジメント事業による経営強化プランとの比較・検証 ・院内収支改善チームを設置し分析・シュミレーション・決定・実行する ・収支状況を可視化し各部門共通認識のもと収益改善に取り組む ・医師と丁寧に対話を重ね医療の質の確保と充実を図りつつ査定額を削減させる ・令和8年度診療報酬改定の情報収集及び各種施設基準・加算の見直しと対応
(2)	実現したい成果	効率的な病床の管理と今後の病床運用の確立
	取組内容	・患者数、医療スタッフ数の動向に伴う今後の病床運営の確立 ・病床稼働率85%を目標とした効率的な病床と在院日数の管理 ・ベンチマークソフト分析を活用した当院の立ち位置の確認、他病院との比較・改善を行う
(3)	実現したい成果	医療DXへの対応及び診察から会計の流れの改善
	取組内容	・マイナ保険証の利用促進と電子処方箋等医療DXの取り組みについて運用方法の調整を図り、システムの決定と導入、稼働まで進める ・国、県の動向を把握しながら医療DXを導入、活用し患者サービスを向上させる

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

(1)コスト意識を持ち収益改善に向けた経営分析と行動
・外部コンサルは上半期に2度実施し、外来での新たな加算を取得するための具体的なアドバイスを受けた。
・課題ごとに4つのワーキンググループを立ち上げ、各職種が関わり経営改善に向けた活動を実践している。
・県南医療圏での繋がりを生かし、病院運営に関する他の手法を参考に業務改善に取り組んでいる。
(2)効率的な病床の管理と今後の病床運用の確立
・10月からの病床数適正化に向け、多職種が協力・連携し病院全体で新たな加算等を取得するために協議を重ねた。
・地域の医療機関と介護施設の連携強化の一環として、感染対策室および入退院支援室合同により外部施設向け研修会を行った(9/18開催　対面参加:21名、オンライン参加:20名)。
(3)医療DXへの対応及び診察から会計の流れの改善
・マイナ保険証読取機の増設と職員による患者サポートを行った。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1)コスト意識を持ち収益改善に向けた経営分析と行動
・10/1より開始する外来加算取得の体制を軌道に乗せ安定した収益を得る。さらに、新たな加算取得に向けて多職種で連携して取り組む。
・医師やコメディカル部門と対話型のヒアリングを行い意見やアイデアを引き出すことによって、病院全体で業務改善、経営改善を図る。
・慣習的に行ってきたことを見直し、業務に関する取捨選択を行いコストダウンにつなげる。
(2)効率的な病床の管理と今後の病床運用の確立
・地域医療連携セミナー（11/5開催）を通して、地域の医療機関や施設との連携を強化し、患者数の増加につなげる。
(3)医療DXへの対応及び診察から会計の流れの改善
・国・県の動向に注視しながら、電子処方箋の導入とともに患者サービスの向上を図る。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）